

2018年度 大学自己点検・評価(人間福祉学部)自己点検・評価総括用シート 1

＜人間福祉学部の教育研究目標の進捗状況＞

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況
目標1	人間福祉学部学生の学力の向上	直近2年間の2年生から3年生への進級判定不合格者数における入学方式毎の人数の割合、または、進級判定不合格者の総数のいずれか。(いずれかを満たせば尺度達成)	A: 割合が15%を超える入学方式がない、または不合格者の総数が15名未満。 B: 割合が20%を超える入学方式がない、または不合格者の総数が20名未満。 C: 割合が25%を超える入学方式がない、または不合格者の総数が25名未満。 D: 割合が30%を超える入学方式がある、または不合格者の総数が30名を超えている。	2018年度目標値 C
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) C
目標2	学問的基盤に根ざした専門的かつ実践的な教育の提供	卒業時に実施するアンケート結果(「4年間の学びを通して『3つのC』が身についたと思いますか」という問いに対する「はい」と答える者の割合)	A: 「はい」と答える者の割合がCに対して6%アップ B: 「はい」と答える者の割合がCに対して3%アップ C: アンケートを実施し、現状を把握 D: アンケート未実施	2018年度目標値 B
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) C
目標3	「人間福祉」の多様性と可能性を社会に発信し、「人間福祉」という学問領域を社会に浸透させる。	卒業時アンケート結果(「人間福祉学部が第一志望でしたか」という問いに対して「はい」と答えた者の割合)	A: Cに対して10%アップ B: Cに対して5%アップ C: アンケートを実施し、現状を把握する D: 現状を把握していない	2018年度目標値 B
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) A

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>

人間福祉学生の学力の向上を見据え、低年次にアカデミックアドバイザー制度を利用し、注意喚起することにより、学力格差(2014年度 研究研修I進級不可者数33名→2017年度 20名)が改善された。

低年次教育をより充実させるため、スタディガイドを作成し、レポート作成方法及び剽窃などの倫理教育に大いに寄与することが期待される。

2016年度秋学期に本学部ホームページのリニューアルを行い、ホームページの滞在時間を大いに増やすことができ、本学部の理解浸透に寄与されている。

評価専門委員・所見記入欄:

■総括1について

- ・ 十分に取り組んでおられるものと思います。なおホームページ滞在時間は所属学部生についてのものと特定できるのでしょうか。(A)
- ・ 「3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと」については、適切な自己評価がなされている。(B)
- ・ 適切に自己点検、自己評価できており、評価できます。(C)
- ・ 低年次教育への取り組みの成果が出ている。アカデミックアドバイザー制度と各ツールの見直しを組み合わせ、さらに改善していくことを期待している。(D)
- ・ 引き続きPDCAサイクルを機能させることで、更なる伸展につながることを期待します。(F)
- ・ 教育研究目標1の学力向上に向けて、積極的な改善活動を行っていることがうかがえます。(G)
- ・ 低年次教育の取り組みが顕著な成果をあげていることが伺えます。(H)